

此云區玖、鯉魚浮池、朝夕臨視而戲遊、時弟媛欲見其鯉魚遊、而密來臨池、天皇則留而通之、爰弟媛以爲夫婦之道、古今達則也、然於吾而不便、則請天皇曰、妾性不欲交接之道、今不勝皇命之威、暫納帷幕之中、然意所不快、亦形姿穢陋、久之不堪、陪於掖庭、唯有妾姊、名曰八坂入媛、容姿麗美、志亦貞潔、宜納後宮、天皇聽之、仍喚八坂入媛爲妃、

〔日本書紀八仲哀〕二年正月甲子、先是娶叔父彥人大兄之女大中姬爲妃、

〔日本書紀十應神〕二年三月壬午、先是天皇以皇后姊高城入姬爲妃、○中又妃、皇后弟、弟姬、

〔日本書紀十一仁德〕二年三月戊寅、妃日向髮長媛、生大草香皇子、幡梭皇女、

〔日本書紀十二履仲〕元年七月壬子、立葦田宿禰之女黑媛爲皇妃、

〔日本書紀十三安廉〕元年二月戊辰朔、爰取大草香皇子之妻中帶姬、納于宮中、因爲妃、

〔日本書紀十八安閑〕元年三月戊子、立三妃、許勢男人大臣女、紗手媛、紗手媛弟、香香有媛、物部木蓮子、木蓮子、此拖聚、大連女、宅媛、

〔日本書紀二十一崇峻〕元年三月、立大伴糠手連女、小手子、爲妃、是生蜂子皇子、與錦代皇女、

〔二代要記二桓武〕妃三品酒人內親王天皇庶妹也、齋宮後、天皇納之掖庭、寵幸第一也、

〔日本後紀東大寺要錄所引〕天長六年八月丁卯、二品酒人內親王薨、廣仁○光天皇之皇女也、母贈吉野皇后

內親王也、容貌妖麗、柔質窈窕、幼配齋宮、年長而還、俄叙三品、桓武納之掖庭、寵幸方盛、生皇子朝原內

親王、爲性倨傲、情操不修、天皇不禁、任其所欲、姪行彌增、不能自制、弘仁中、優其衰暮、特授二品、○中薨

時年七十六、

〔水鏡光下〕仁、寶龜四年正月十四日、山部親王○桓武の中務卿と申しておはせし、東宮にたち給ふ、

○中大臣以下、御門○光に申していはく、儲君は去ばしもおはせずしてあるべき事ならず、

みやかに立て奉り賜へと申しかば、御門たれをかたつべきとの賜はせしかば、百川すゝみて、